発行所
豊かなまちづくりをめざす
はまうら佳子後援会
〒582-0026　柏原市旭ヶ丘2丁目4番25号
電話 072-977-5502／FAX 072-977-8782
E-mail info@yoshiko-hamaura.com
www.yoshiko-hamaura.com

柏原を夢あるまちに

チェンジ！

2009 9

柏原市会議員選挙

“改革の灯”消えず

改革推進市民派 はまうら佳子当選

八月三〇日に行われた柏原市会議員選挙で、浜浦佳子が当選を果たした。岡本市政にはっきりとの申す浜浦が議席を占めることによって、行政の独断を許さない体制ができた。

定数は一八。前回より二議席削減されたため、激戦となった。しかも、ダブル選挙となった国政選挙の影響も大きかった。

そんななか、市民派として無所属で出馬した浜浦佳子は、民主公認で出た前回と違い厳しい選挙を強いられた。しかし一三六六票を得て晴れて市議となった。数字が示す通り過酷な戦いだったが、この当選は非常に重みのあるものだ。

新しい議会の勢力は、市長追随派と是々非々派が拮抗すると予想される。その中で、岡本市長の独断的な行政に対して批判を貫いてきた浜浦佳子の当選は、「改革の灯」が消えなかったことを意味するからだ。

いうまでもないが、行政に対するチェックが議会の最大の務めであり、いい意味での緊張関係が必要だ。とかく独断的との批判のある岡本市長への牽制という点も、浜浦佳子を選んだ市民の意思と言える。選挙結果に示された民意を岡本市長がどう受け止め、市政に反映していくかは一〇月七日に開かれる議会でわかるだろう。

浜浦佳子は、一期目のときから岡本市政に対して鋭い批判をしてきた。そして今年二月、言葉だけでなく「柏原市を再生したい」という一念で議員の職を辞して市長選に出馬、現職に挑んだ気骨の持ち主である。

卑劣な妨害も受けたが、現市政への批判の民意を受け、見事当選した浜浦候補

実際、浜浦佳子に対しては市民から「岡本市長にはっきりもの言うのは浜浦さんだけ」という期待の声が多かった。

それに対して、浜浦佳子の当選を阻もうとする側の妨害は常軌を逸するものだった。選挙前から、浜浦佳子個人や、浜浦クリーンに対する違法な中傷ビラが捲かれたり、事実を大きくねじ曲げた報道が「柏原新聞」に掲載された。また、違法な「業務停止処分」という市による圧力もあった。これらに対して浜浦側は即刻法的措置をとっており、近く法の裁きが下るはずだ。

選挙期間中にも同じようなデマが乱れ飛んだ。これだけの妨害をはねのけて、浜浦佳子が当選を果たしたという事実は、柏原市の再生に向けて「改革の灯を消すな」という強い民意に他ならない。岡本市政こそが“政権交代”を期待されているのだ。「先生、柏原をなんとかしてや！」岡本市政にはっきりと申す浜浦佳子への期待の声が、選挙後ますます大きくなった。

浜浦佳子当選は、現市政批判の民意

柏原市がまず取り組むべきは「行政のスリム化」。職員の削減、業務の外部委託によるコスト削減など、民間なら当たり前のことを断行すべきだ。にもかかわらず、岡本市政は何ら有効な手を打たず、むしろ逆行する施策を行っている。

たとえば、国民年金健康保養センター「サンヒル柏原」。柏原市は五億一五〇〇万円で落札。しかし漏れ聞こえてくる情報を総合すると市の職員ＯＢの天下り先になりかねない。

同じ府下の泉佐野市は、財政破綻一歩手前の「早期健全化団体」となることが確定した。財政の深刻さでは柏原市も五十歩百歩だ。

こうした数々の課題を前に、現市政批判の民意を受け、浜浦佳子は市議としての一歩を踏み出した。

はまうら佳子市議に聞く

――今回の市議選では「市民が主役の政治」を訴えていました。具体的には？

皆様のご支持、本当にありがとうございました。さて、司法の場では裁判員制度がスタートしました。あのお堅い裁判所でも市民感覚を取り入れて、改革を進めようとしています。

同じように、住民の中から無作為に選んだ人が、市から出されたいろんな案件をチェックする機能をつくることを提案します。たとえば土日、あるいは金曜日の夜に集まる。そういう人たちに報酬を払って市政に参加してもらうのです。実質的な意味の「行政協力員」です。

――現在は、区長という制度があります。

今回の市議選で、私が区長制度を廃止して議員を増やせと主張しているというデマが流されました。区長さんには、地域のコミュニケーションを円滑にする担い手として、引き続き頑張ってほしいです。

市民主役の政治で、本物の市政改革を　議員定数削減、ムダ排除

一方、私の言う「行政協力員」は１、２年ごとに交代してやる。例えば一回３万円というように報酬も出します。そうしたら、柏原市の議員は18人もいりません。10人で充分です。それで年間7000万円ほど経費削減になります。行政協力員への報酬を出してもまだ余ります。

――お年寄りも若者も政治参加するためには？

たとえば、柏原市は最近、「サンヒル」を５億1500万円で買いました。市が運営しても絶対黒字になるか疑問です。維持管理費が赤字になればまた市民の負担になるだけです。こういう大きな案件については、立場や年代を超えた行政協力員の方たちに集まっていただいて、税金のムダ遣いをチェックするんです。

そうすれば、20代の若者も80代お年寄りも政治に関与できます。税収が落ち込んでいるとか、新規の事業が遅れていたら、「柏原もしんどいんやな」とわかる。若い人たちも政治に関心を持ち、「柏原をよくしよう」という機運も出てくるでしょう。それぞれの地域の意見を集めて、議論をして多数決で決めて市議会へ持っていく。市議会は国会でいえば参議院と同じでチェックだけし、イエス・ノーをもらって役所が執行するようにすれば、市民が主役の政治が実現できるのではないでしょうか。

そのようにして、お年寄りも若者も、市民が夢を持って豊かに暮らせる柏原をつくることが、今回の選挙で私を支持してくださった方へのお礼と責任だと感じています。ありがとうございました。

当選者一覧

山下	亜緯子	自現
中野	広也	自現
奥山	渉	無現
堅木	照久	公現
岸野	友美子	無元
田中	秀昭	無新
橋本	満夫	共現
山本	真見一	共新
乾		無現
大坪	教孝	無現
計盛	佐登子	公現
中村	保治	公現
寺田	悦久	無現
藤森	洋一	無現
竹田	清一	無現
鶴田	将良	無新
石橋	実	無新
浜浦	佳子	無元